

科目名	聴力検査			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間 (1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
聴覚機能の評価法の基礎について学ぶ。								
〔授業全体の内容の概要〕								
聴覚機能検査について、その理論を学び、各種検査方法を習得する。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の聴覚機能検査について学び、実施方法を習得する。</li> <li>・検査の選択と検査結果の解釈について学ぶ。</li> </ul>								
回数	講義内容							
1	標準純音聴力検査のおさらい							
2	マスキング ①							
3	マスキング ②							
4	マスキング ③							
5	マスキング ④							
6	マスキング ⑤							
7	マスキング ⑥							
8	聴性誘発反応 ①							
9	聴性誘発反応 ②							
10	聴性誘発反応 ③							
11	耳音響放射							
12	自記オージオメトリ、閾値上聴力検査							
13	機能性難聴の検査、耳鳴検査、選別聴力検査、その他							
14	聴覚機能検査の進め方①							
15	聴覚機能検査の進め方②、まとめ							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
聴覚検査の実際 改訂4版						南山堂		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								